

トリフルミゾール乳剤 トリフミン乳剤	取扱メーカー： 石原、協友アグリ、日本曹達 原体メーカー： 日本曹達
成分： トリフルミゾール〔エルゴステロール生合成阻害剤〕…15.0% その他 PRTR 該当成分： ボリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル〔PRTR・1種〕…3.5% ナフタレン〔PRTR・1種〕……………5.4%	性状： 淡黄色澄明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第2石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

【品目特性】……………

- 病原菌（かび）の細胞膜形成に必要なエルゴステロールの生合成を阻害する。
- 胞子の発芽は阻害しないが、菌糸の伸長を強く阻害する。
- 予防効果と強い治療効果があり、病原菌が侵入した後の散布でも効果を有する。
- 乳剤の粒子が微小なため、種もみの表面にムラなく付着し、さらに種もみの内部に速やかに取り込まれ内部の病原菌に対しても効果を示す。
- 乳剤なので、薬剤の計量・希釈が容易で、浸漬中に沈澱が起こらないため攪拌の必要がない。
- 薬剤処理後風乾する必要がない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種する。
- 浸種処理の場合、もみと処理薬液の容量比は1：1以上とし、種もみはサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆする。
- 薬液の温度は極端な低温をさける。
- 吹き付け処理を行う場合、種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させ、乾燥させる。塗沫処理の場合は、種もみに均一に付着させるようにする。

- 処理を行った種もみを浸種する場合は、浴比は1：2とし、停滞水中で行い、河川、湖沼、ため池では行わない。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 稲の種子消毒に使用する場合は下記の点に注意する。
 - 処理により、軽度の初期生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
 - 箱育苗の場合播種前に床土に十分灌水し、覆土後の灌水は原則として行わない。灌水量が少ないと一般に根上がりの原因となるので、灌水量は少なくとも箱当たり1ℓ以上とする。
 - 丸型樹脂ポット・型枠育苗方式で育苗する場合は、機械メーカーなどの関係機関の指導を受ける。
 - 過度な高温での出芽はさける。
- 適用作物（きゅうり）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。



【適用と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トリフルミゾールを含 む農薬の総使用回数
稲	ばか苗病 ごま葉枯病 いもち病	30 倍	—	浸種前	1 回	10 分間 種子浸漬	1 回
		300 倍				24～48時間 種子浸漬	
		5～10 倍	乾燥種もみ 1 kg 当り 希釈液 30 <i>ml</i>			種子吹き付け処 理（種子消毒機 使用）又は塗沫 処理	
小 麦	赤かび病 うどんこ病	1000 倍	60～ 150 <i>ℓ</i>	3 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)
きゅうり	うどんこ病	2000 倍	100～ 300 <i>ℓ</i>	前日まで	5 回 以内		5 回以内
な す	うどんこ病 すすかび病						
ト マ ト ミニトマト	うどんこ病 すすかび病 葉かび病						
こんにゃく	乾腐病	30 倍	種いも 1 m ² 当り 150 <i>ml</i>	植付前	1 回	種いもの芽基部 に散布	1 回
チューリップ	球根腐敗病		—			10 分間 球根浸漬	
き く	白さび病	1000 倍	100～ 300 <i>ℓ</i>	—	5 回 以内	散布	5 回以内